

1. 第25回フォーラムを開催 (2024. 3. 9)

第25回山のトイレフォーラムを札幌エルプラザ・環境研修室で53名の参加者を迎えて開催しました。

テーマは「どうする！どうなる！日高山脈国立公園化」～トイレ・避難小屋・野営地・登山道～です。

第一部は「日高山脈の山小屋とトイレ調査結果」と題して当会事務局長の仲俣善雄が2022年と2023年に亘って調査した14箇所の山小屋とトイレの調査結果について報告しました。

第二部は第一部の報告を踏まえて、フォーラムのテーマについてパネルディスカッションをしました。パネラーは環境省帯広自然保護官事務所自然保護官の山北育実氏、十勝山岳連盟会長の齊藤邦明氏、日高山脈ファンクラブ事務局の高橋健氏、日本山岳会北海道支部前支部長の藤木俊三氏の4人。コーディネーターは仲俣がしました。

登山道、避難小屋とトイレの維持管理はどうすべきか。野営地、案内標識、ヒグマ、焚き火、登山者の安全管理など多岐に亘って熱い意見が交わされました。

当会のホームページで第一部の報告内容、第二部のパネルディスカッションの記録そしてフォーラム資料集を見ることができます。



左から山北氏、齊藤氏、高橋氏、藤木氏のパネラーと仲俣

2. 美瑛富士・固定式携帯トイレブースの点検パトロール実施(2024.6.23~9.29)

北海道の山岳団体から構成する「美瑛富士トイレ管理連絡会」による携帯トイレブースの点検パトロールがスタートしてから10年目。今年は8回実施することができました。10年以前と比べ、汚物とティッシュの散乱は少なく、小屋周辺はきれいに使われています。連絡会による美瑛富士のティッシュと汚物の回収数の年度推移を図に示します。

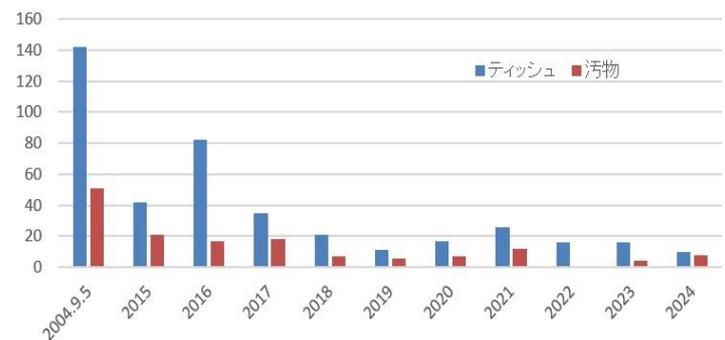
縦横無尽にあったトイレ道の植生が回復し、判別できないほど薄くなりました。ブースの利用数は365でした。

〔点検パトロール実施状況〕

- ・6月23日：※ 山のトイレを考える会
- ・7月 7日：大雪山国立公園パークボランティア連絡会
- ・7月21日：道央地区勤労者山岳連盟
- ・7月28日：札幌山岳連盟
- ・8月 4日：北海道山岳連盟（豪雨のため中止）
- ・8月18日：日本山岳会北海道支部
- ・9月 8日：道北地区勤労者山岳連盟
- ・9月24日：北海道山岳ガイド協会
- ・9月29日：※ 山のトイレを考える会

※美瑛町と環境省のブース冬囲い（外し）にも協力

美瑛富士ティッシュ・汚物数回収年度推移



トイレ道の植生が回復してきました



ブースの冬囲いと点検パトロールが終わって（9月29日）

3. 大雪山沼ノ原大沼野営指定地のトイレ実態調査実施（2024. 7. 27～28）

運営委員2人と一般会員1人の3人で現地1泊の調査を実施しました。大沼は6月上旬満水。その後、徐々に水が少なくなりテント地（砂地）が現れ、7月頃からテントを張ることができます。しかし、豪雨になると再び満水となる野営指定地です。

まずティッシュや汚物が散乱していないか確認。沼の淵や砂地を捜しましたが、全くありませんでした。ウイスキーの瓶1本回収。2021年9月26日に運営委員が個人で行った時も全くありませんでした。不思議な野営指定地です。想像ですが、ティッシュや汚物は満水時に沼の中に溶け込んでしまうのではないかと思います。

次に身を隠す所があるか。よく探せばありますが、沼の淵は濃い笹藪や灌木で覆われていますのでなかなか探すのは大変です。

もし、携帯トイレブースを設置する場合、何処がよいかも現地確認しました。テント型ブースを砂地に設置したとしても満水になれば水に浸かります。強風での倒壊も危惧されます。アンカーが外れ沼地に散乱してゴミとなるかも知れません。大沼入口に環境省の看板がありますが、ここは湿地帯で慎重な検討が必要です。何よりも設置した場合、維持管理の課題があります。

テント数は7張。夜遅く帰ってきたテントが2張。アンケートは5張の人から回収し10枚。夜中から雨が降り、びしょ濡れのテントを撤収。雨の中、下山しました。

9月中旬にも計画しましたが、9月8日に豪雨による満水との情報があり、断念しました。

アンケート調査結果も含め、当会としての見解を今年度中に公表する予定です。



2024年7月13日の沼ノ原大沼野営地のテント設営状況（YAMAPユーザー波男さんの許可を得て使用）

4. 大雪山十勝岳愛護少年団交歓会に参加（2024. 8. 6）

第53回目の大雪山十勝岳愛護少年団交歓会が8月6日に大雪山旭岳5合目で開催され、当会の仲俣善雄が講師として参加しました。主催は東川町（旭岳ビジターセンター）です。

生徒は東川中10人、美瑛町の美沢小8人のほか先生や保護者。姿見駅のデッキで携帯トイレの使い方を説明、5合目ではA3ラミネートを使って、携帯トイレ普及に至る背景と山岳トイレの現状について説明しました。その後、生徒が登山者に携帯トイレを配布し、利用を呼びかけました。外国人に英語で話す生徒もいて楽しく有意義なイベントだったと思います。



大雪山十勝岳愛護少年団と写す（旭岳5合目）

5. 日本自然保護大賞2024 選考委員特別賞を受賞（2024. 10. 17）

（公財）日本自然保護協会主催の日本自然保護大賞（今年で10回目）に応募し、当会は選考委員特別賞を受賞しました。日本の自然保護と生物多様性の保全に大きく寄与した団体に授与されます。

大賞は3団体、特別賞の沼田眞賞1団体、同じく特別賞の選考委員特別賞が2団体、入選が6団体です。

2000年ころから携帯トイレの普及啓発と登山者が利用し易い環境整備に行政や山岳団体、民間事業者等と協働で取り組んできたことが評価されました。

授賞式は2025年1月19日（日）午後に札幌エルプラザで行う予定です。



山のトイレデー（左は十勝岳2015年、右は十勝岳温泉2009年）

連絡先

〒004-0061
札幌市厚別区厚別西1条2丁目3-18
山のトイレを考える会 事務局
電子メール：hokkaido@yamatoilet.jp